

## 北広島市 2021年第3回定例市議会(8月20日～9月9日) 8月31日 代表質問 鶴谷 聡美

JR北広島駅のバリアフリー改修に係る補助金及び福祉ショップの移転に要する経費、ボールパークに近接するJR新駅整備に向けた調査や概略設計負担金、景観行政団体への移行に向けた検討のための先進地視察に要する経費、訪問型産後ケアの実施に要する経費、土木事務所の移転に係る建築工事や工事管理委託などに要する経費、第6期最終処分場の火災(8/8発生)により焼失した遮水シート及びガス抜管の復旧に要する経費、感染防止対策協力支援金支給として営業時間短縮等(8/14～9/12)に協力する事業者への支援金等の補正予算が追加提案され、9億4,600万円増額の一般会計補正予算を可決、合計で288億9,480万円となりました。教育委員会委員及び固定資産評価審査委員会委員の選任に係る同意案2件、北広島市債権管理条例の制定を含む議案15件を可決。「適格請求書等保存方式(インボイス制度)の延期を求める意見書」を含め、2件の意見書案を可決。2020年度各会計歳入歳出決算認定、2020年度水道事業会計剰余金処分及び決算認定、下水道事業会計剰余金処分及び決算認定は、閉会中の決算審査特別委員会に付託されました。

質 問	答 弁
<p><b>1. 子育て支援・福祉施策について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産後ケア事業について、市民ネットワークが提案してきた訪問型ケア開始のための補正予算が計上された。開始時期や提携する事業者の確保、利用期間など、概要について伺う。</li> <li>仕事と子育ての両立に欠かせない病児保育について、現在の病児緊急預かりはファミリーサポートセンター事業の中に位置づけられている。「潜在的なニーズがある病児保育の提供体制を検討する」とは、どのような体制を想定しているのか伺う。</li> <li>子どもの権利の周知や情報発信は、これまで主に小学生以上を対象としてきた。生きる、育つ、守られる、参加する、四つの権利は、小さな子どもにおいても大切な権利。保育士や支援者はもちろん、保護者にも「未就学児や赤ちゃんにも権利がある」と伝えることで、子育ての視野が広がると思う。乳幼児の子育て世代に向けた子どもの権利の普及、促進について、市長の見解を伺う。</li> <li>コロナ自粛の影響で外出する機会が減り、コロナ前までは元気だった高齢者が介護サービスを利用するようになった例もある。日常の活動が減少し、意欲をなくして介護予備軍になっている実態が多く、高齢者支援や介護の現場からは、コロナ禍の一番の課題との声が寄せられている。1年半続くコロナ禍での高齢者の体力や自立度の低下、介護にかかわる相談、問い合わせ状況について伺う。</li> </ul> <p><b>2. 教育施策について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年の春、旭川市で当時中学2年の女子生徒が遺体で見つかるという悲しい出来事が報じられた。身近にいじめがあることに気づいたとき、私たちおとなは、子どもたちのために何を一番に行動するのがよいかと考えさせられる。いじめから子どもを守る取り組みについて、教育長の見解を伺う。</li> <li>本市のいじめ防止基本方針は、子どもの権利条例の理念が生かされていると推察するが、子どもの権利条例や救済委員会とのかかわり、連携についての文言が見あたらない。子どもの権利条例の救済委員会、相談員との連携はどのようになっているのか伺う。</li> <li>2022年4月に、札幌市で公立夜間中学が開校する。入学対象は、学齢期を過ぎた方等のほか、不登校などの理由により十分に学ぶことのできなかった方、札幌市及び札幌市と連携する市町村(北広島市含む)の在住者で、国籍は問わない。外国人を含めた市民への周知広報について、どのように行うのか伺う。</li> </ul>	<p><b>1.</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、一般社団法人北海道助産師会、及び一般社団法人マザーリングサポート協会と事業内容について協議を行っており、できるだけ早期に利用が開始できるよう取り組んでいる。利用期間は、生後4か月未満とし、宿泊型、通所型とあわせて、1人につき最大7回までの利用を予定している。</li> <li>第2期子ども・子育て支援プランにおけるニーズ調査から、1日あたり2名程度の需要があるものと考え、認可保育所や認定こども園の整備の検討にあわせて、病児保育機能の併設について検討していく。</li> <li>主に就学前の子どもと保護者が利用する子育て支援センターや、出張型ひろば事業を実施する各会場において、巡回子どもの権利相談を実施。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止による中止の影響があったが、子育て支援センターあいあい計10回、出張型ひろば事業で計6回行った。今後、子育て支援センターのどんぐり、ぶらんこにおいても実施予定。内容は、子どもの権利相談員が乳幼児の保護者を対象に、子どもの権利条例について、紙芝居やリーフレット等を用い、簡単な説明を行うとともに、さまざまな相談も受けるもので、今年度はこれまで11回の相談を受け付けた。</li> <li>地域の身近な相談窓口である高齢者支援センターからは、自粛生活の影響と思われる身体機能や、認知機能低下に関する相談及び介護認定区分の変更に関する相談が増えていると報告を受けている。</li> </ul> <p><b>2.</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北広島市いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止の取り組みとして、学校におけるいじめ防止に向けた道徳教育、人権擁護委員等と連携した人権教育、児童・生徒のいじめ防止に関する主体的な取り組みなどを行っている。児童・生徒に対するいじめアンケートの実施、相談体制の整備、スクールカウンセラーなどの配置を行っている。さまざまな取り組みを通して、いじめをしない、させない、許さない、見過ごさないという、いじめの根絶の土壌をつくることが重要であると考えている。</li> <li>いじめ重大事態の事案について、いじめ問題等対策委員会や学校の調査結果から、市が必要とした場合の再調査は、いじめ問題再調査委員会において実施することとされている。再調査委員会は、本市の子どもの権利救済委員会の委員をもって再調査委員会の委員にあてることとなっている。いじめ基本防止方針において、この再調査の調査委員会が子どもの権利救済委員会の委員であることの記載がないことから、見直しの際に、関係機関や関係団体との連携を検討するとともに、よりわかりやすい記載となるよう努める。なお、子どもの権利窓口で直接いじめに関する相談があった場合は、状況に応じ、子どもの権利救済委員会と連携している。</li> <li>札幌市の公立夜間中学校の周知については、札幌市教育委員会より提供された情報を教育委員会ホームページへ掲載するとともに、広報紙への掲載、公共施設での案内チラシを配置している。入学者の費用負担については、入学者が在住する市町村が応分負担することとされており、現在、札幌市において、就学援助を含めた費用負担について検討されていることから、その動向を注視していく。</li> </ul>

**3. 防災施策について**

・8月4日、局地的大雨により、市中心部で道路が冠水し、北海道胆振東部地震で大きな被害があった大曲並木でも土砂崩れが発生した。全国でも記録的な大雨による災害が続発しており、この先、異常気象を見据えた防災対策を進める必要がある。市長の見解を伺う。

**4. 生活環境の整備・充実について**

・プラスチックにかかわる資源循環の促進等に関する法律が6月に成立した。マイクロプラスチックに象徴される海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化等への対応を契機として、国内におけるプラスチック資源循環を一層促進する重要性が高まっている。産官民の連携した取り組みとして、兵庫県内の高砂市、加古川市等では、飲料メーカーと協定を結んでいる。協定は、地域内で回収したペットボトルを使用した製品を出荷し還元するもので、ペットボトルの永久リサイクルと言われている。本市においても、これから定住・交流人口増加に向けた施策が推進されることに伴い、生活の中から出てくるプラスチック製廃棄物の資源循環は重要な課題になると考える。市長の見解を伺う。

**5. 市民参加の推進について**

・2020年末から新型コロナウイルス感染症が拡大し、コロナ前のような集い、対面する機会が激減。コロナ禍約1年半、市政に反映するため、生活実態の把握や市民意見の収集にどのように取り組んできたのか伺う。また、成果や課題について、どのように検証し、認識しているのか、見解を伺う。今後、コロナ禍における市政推進にかかわる情報提供や市民意見の収集について、どのように取り組むのか、見解を伺う。

**6. ボールパーク構想にかかわる施策について**

・ボールパーク周辺には、道立札幌養護学校共栄分校や北広島高校、福祉施設がある。本市の子どもの権利条例第12条に、「育ち、学ぶ施設における権利の保障として、学ぶ施設が子どもの豊かな人間性と多様な能力を育むために重要な役割を果たすことを認識し、子どもにとって最もよいことは何かを大事に考え、子どもの年齢や発達に応じた支援や指導に努めなければならない」とある。ボールパークを誘致した市として、児童生徒の学習環境等を確保することは、当然と考える。児童生徒個人の意見を把握し、不安、要望、意見に対し、市が主導し道教委やファイターズ等と共有し、早急に対策を講じるべきと考える。市長の見解を伺う。

・アクセス道路整備計画及び整備費用について、国道274号とボールパークを結ぶ市道西裏線新設に60億8,000万円と報じられた。すでに工事が始まっているが、社会状況は、計画当初とは一変し、社会全体がコロナで疲弊している。アクセス道路整備費用の財源の大半は国の交付金をあてることは承知しているが、コロナ禍により、経営困難状況が続いている市内事業者や、自粛を強いられて疲弊している市民生活への支援策に予算をあてるよう取り組んでほしいという声が寄せられている。現在の非常時における市民生活や事業者への支援策を優先するべきではないか。また、JR千歳線の架線の上にかける巨大な橋梁の建設や盛土など、緑地、山林のさらなる開発が伴うことが想定される。今後、異常気象時の災害に耐え得る道路の建設を進めることが重要と考える。市民目線の観点から、市道西裏線の工事スケジュールの再考を検討すべき。見解を伺う。

**3.**

・異常気象を見据えた防災対策については、引き続き災害発生時における応急対応にかかわる訓練の実施や、資機材等の整備を進めるとともに、局地的大雨等による水害の発生を未然に防ぐため、河川や遊水地の適切な管理、運用について、国や道に働きかけていく。

**4.**

・現在、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」に基づき、分別収集し、リサイクルしているプラスチック製容器包装ごみとペットボトルに加え、今後、プラスチック使用製品廃棄物の分別収集が求められる。新たな分別等の導入にあたり、リサイクルのしくみにあった分別の方法のほか、収集体制等の整備も必要となることから、今後示される制度の詳細な情報に基づき、検討していく。

**5.**

・市政に反映するための広聴活動は、「きたひろしま市民の声」として、窓口、電話やファックス、郵送、メール、出前講座や出前トーク、市政懇談会など、さまざまな手法に取り組んできた。私自身、各地区の町内会の総会や行事などに参加させていただく中で直接市民の皆様の声を伺い、その意見を大切に市政運営を心がけてきた。現在、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、多くの方が集まり、意見等を伺う場は少なくなっているが、一方で電話やメールなど、非対面の方法による市民の声が例年より多く寄せられている。今後もさまざまな手法により、より多くの声を伺い市政運営に生かしていく。

**6.**

・これまで適宜情報共有を図り、各関係機関の皆様のご意見を伺いながら、周辺工事などを進めてきた。各学校については、保護者説明会を実施し、直接保護者の皆様の声を伺うとともに、北広島高校においては、今年度よりボールパークニュースを保護者向けに発行していただき、工事の進捗状況や、生徒、保護者の皆様に対する必要な情報発信を行っている。今後も、周辺施設と連携を図りながら情報共有に努め、開業に向けて各種取り組みを進めていく。

・市道西裏線については、現地の測量調査結果に基づき、経済性や自然環境への影響などを考慮し、ルートの検討を重ね、北海道開発局やJR北海道、北海道公安委員会などの関係機関と協議を行い、ルートを決定した。市内の道路における交通渋滞を抑制するため、速やかな整備が必要であると考えている。なお、道路の設計にあたっては、地形図などの既存資料の確認や、土質、地質調査を行い、安定性をチェックしている。